

## 【経営体概要】

・地域（7集落）の大豆生産を統括。大豆→水稲（早生）→水稲（中生又は晩生）の3年サイクルの大豆生産を担っている。（水稲は4法人及び個人農家が生産）

## 【経営状況】

- ・大豆119ha（R4年）（栄北部（川通北部地区）の水田面積400ha）
- ・大豆の単収は268kg/10a（R3年）、上位等級比率（1・2等）は55.4%

## 1. 経緯・背景

- ①平成13年に、ほ場整備を契機に組織化、平成19年に法人化
- ②当初より大豆のブロックローテーションを継続  
（当初は4年に1回、現在は3年に1回）

## 2. 大豆生産のポイント

- ①3年サイクルでの大規模なブロックローテーションと概ね2～3か所の団地に集約して栽培（地域排水効果）
- ②水稲収穫後からの徹底した排水及び碎土率の向上対策  
（秋から弾丸暗渠か心土破碎、春にバーチカルハローで整地、アップカットロータリーで畝立て同時播種）
- ③雑草・病害虫防除の徹底

## 3. 実需者との取引状況

## ＜令和4年産大豆＞

- ①出荷契約面積：3,549ha（前年比100%）
- ②出荷契約数量：6,451トン（前年比103%）
- ③銘柄別割合：里のほほえみ63%、エンレイ36%、その他1%
- ④用途別割合：豆腐・油揚83%、味噌・醤油7%、納豆6%、  
（契約栽培ベース） その他4%

## 4. 今後の展望

他地域からの要請により、大豆の播種や収穫等作業を請け負っていく。

### 【経営体概要】

- ・ H18年に自家就農し、米・麦・大豆体系で、農地約53haを営農。

### 【経営状況】

- ・ 水稲40ha、大豆13ha、大麦3ha、野菜等20a（R4年）
- ・ 大豆生産実績（R3年）単収210（kg/10a）、上位等級比率（3等以上）93.2%

## 1. 経緯・背景

- ①排水対策と作業の省力化を兼ねて、黒部市で普及し始めた「高畝狭畦密植栽培」を本格的に導入（平成25年～）
- ②大麦や園芸作物との複合化により機械や余剰労力を有効活用

## 2. 大豆生産のポイント

- ①播種前の排水対策や土づくり等の基本技術の徹底
- ②適期播種や適正な播種量・施肥により、徒長や過剰生育による青立ちや倒伏の発生防止
- ③初期生育の確保と除草剤の適期散布による雑草抑制

## 3. 実需者との取引状況

- ①令和4年産出荷契約面積・数量 4,157ha 6,717トﾝ
- ②県産大豆需要量 およそ8,000トﾝ  
内 豆腐需要 4,800トﾝ 味噌・醤油 800トﾝ 他、納豆、豆乳等

## 4. 今後の展望

米の需要が低迷する中、機械化体系が整備されている大豆生産へのウエイトは益々高まると考えられる。今後はドローン等も活用し、更なる省力化や生産技術の向上により作付面積や生産量の拡大を図る。